



しよれっと Palette

「ありがとう 伝えて広がる 協同の和」

12

2019 December
vol.232

しよれっと
ありがとう 伝えて広がる 協同の和
12 vol.232
2019 December

URL <http://www.ja-okayama.or.jp/>



特集

「営農振興計画の達成にむけて」

TAC指導員の課題実践計画



JA岡山は、組合員募集中です!

耕そう、大地と地域の未来。

農を担う レンコン農家
十河勇輝さん(左) 十河真樹さん(右)
備南地区……………16ページ

Recipe

旬のレシピ紹介

マグロの揚げたたき

【材料：2人分】

- マグロ(さくで)……………150g
- 付け合わせ野菜各種……………お好みで
- レモン……………1/8個
- おろしポン酢だれ……………大さじ2
(大根おろしにポン酢を掛けた物)
- 揚げ油……………適宜
- 小麦粉……………適宜
- 塩……………小さじ1

【作り方】

1. マグロのさくに塩をすり込み30分ほど置き、水気をしっかりと拭き取る。
2. 1のマグロに小麦粉を付け軽くたたく。
3. 揚げ油を185度に熱し、2を周りがきつね色になるまで揚げる(60~90秒ほど)。
4. 揚げた3の油をペーパータオルで拭き、切り出す。付け合わせの野菜、器に入れたおろしポン酢、レモンを添えて出来上がり。

レシピ提供 / 永井智二(ながいともかず)
茨城県笠間市にある「キッチン晴人(ハレジン)」
オーナーシェフ

Aglogram

あぐるグラム

編集後記

廃棄物から 新たな命を

今回のあぐるグラムは、玉野市の宇野港周辺にあるアート作品について紹介します。

作品は3年に1度開かれる瀬戸内国際芸術祭の作品としても展示されており、開催期間でなくとも見ることができます。中でも「宇野のチヌ」は宇野港周辺の沿岸や児島湖で拾い集めたゴミ、漂流物を使って制作されました。世界各地から海を渡って瀬戸内に漂流した廃棄物が新たな命を宿し、アート作品として展示されています。



編集担当 住吉 沙弥香

発行 / 岡山市農業協同組合 〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1
発行人 / 太田 誠一 編集 / 総務部総務課 TEL086(225)9846

— 営農振興計画の達成にむけて — TAC指導員の課題実践計画

今月号では営農振興計画に基づき各営農センターのTAC指導員が取り組んでいる課題についてご紹介いたします。

沖田営農センター

課題設定①

「個人経営体の法人化、生産量の維持・拡大による生産組織基盤の強化」

取組内容

園芸生産者の法人化支援
(牧石ねぎ部会)

取組具体策

沖田営農センター管内の園芸生産者は、個人経営が中心であり、その労働力は家族および親族と限定的です。5年先、10年先を見据え

た時、労働力の確保が重点課題となり、生産組織自体の存続にも影響します。

また、法人化することに対してハードルが高いと感じている生産者が多いため、税理士や社会保険労務士を招いた勉強会を開催し、税務面・労務面などさまざまな角度から支援を行い、本年度2法人の設立を目指します。

課題設定②

「米と麦の複合経営による作付面積拡大と農家所得の増大」

取組内容

水稻裏作の麦栽培試験

取組具体策

当営農センターでは、農家所得の向上のため水田の裏作で麦栽培を推奨していますが、一部の大型農家の裏作・二毛作にとどまっています。

麦の新規生産者に対しては10㍗あたりの所得見込み金額を提示し、作付推進を図ります。既存生産者に対しては加工用米と二条大麦の作付けによる交付金の優位性を提案し、麦の面積拡大を図ります。



西大寺営農センター

課題設定①

「小麦の適正な粗タンパク含量の確保と施肥作業の省力化」

取組内容

小麦施肥改善試験

取組具体策

小麦の栽培では粗タンパク含量の確保が重要課題です(目標値9・7~11・3%)。粗タンパク含量の向上には実肥の施用が必要ですが、重労働であるため、生産者の大きな負担となっています。追肥の省力化にむけて穂肥施用時(3月)に緩効性肥料を施用し、



穂肥と実肥を合わせて一発施用することで施肥作業の省力化を図ります。併せて収量性、粗タンパク含量を比較するため、試験区を設置します。

課題設定②

「野菜の高品質、多収性の有望品種の導入」

取組内容

野菜有望品種の選定

取組具体策

白菜、南瓜について既存の主力品種の種苗の確保が困難となりつつあるため、新品种の策定が早急に求められています。部会での、品種試験の栽培への取り組み、収量性・生理障害の有無など現地適応性の確認、および既存品種との品質比較試験を実施します。

瀬戸内営農センター

課題設定①

「行政と連携し、サポート事業を活用した島外からの新規就農者の確保」

取組内容

前島キャベツプロジェクトの実践

取組具体策

前島地区では生産者の高齢化や鳥獣害による生産規模の減少が進んでおり、耕作放棄地の拡大が懸念されています。島内だけでは生産振興は難しく、島外からの労働力が必要です。

トータルサポート事業を活用し、1年に1人程度、3力年にかけて新規就農者の確保を目指します。地域活性化を考え前島への移住を前提としているため、受け入れ先農家との意見交換会を積極的に開催します。

課題設定②

「10㍗あたり3トンの収量をめざし、瀬戸内海圏における岡山の瀬戸内レモンブランド力強化」



取組内容

瀬戸内レモンの生産振興

取組具体策

軽量果樹としてレモンの栽培を推進していますが、収量が安定せず、栽培管理の確立が急務となっています。

また、備前広域農業普及指導センターと連携し、普及展示場を設置した上で、増収にむけた栽培管理の確立を図ります。

また、部会や関係機関と連携し販売促進PRに取り組みます。

藤田営農センター

課題設定①

「リーキ等の園芸品目を導入し、水稲農家の雇用安定と所得向上を目指す」

取組内容

水田フル活用による野菜生産振興

取組具体策

大型農家が法人化など規模拡大を進める上で雇用の安定が必要。農閑期に園芸品目を作ることで人材の確保と雇用の創出を図ります。

水稲中心の農家では作業が重ならないようにするため、JA所有の農機具や育苗施設を有効活用し、生産者の負担を軽減します。

課題設定②

「アケボノの10^アあたり10俵の収量確保」

取組内容

水稲多収技術研究

取組具体策

業務用米の引き合いが強まる中、主力品種である「アケボノ」の現在の反収は管内平均で10^アあたり9・5俵となっているため、より一層の多収技術が求められています。

これまでの施肥体系の見直し



高松営農センター

課題設定①

「アケボノの確実な収量アップによる農家所得の向上」

取組内容

水稲有望品種の安定した収量の確保

取組具体策

管内「アケボノ」について収量が減少しているため、ほ場巡回時などに生産者へのヒアリングを行いながら水稲の「発肥料」などの適応性を検証し安定した収量を確保します。

目標は10^アあたり10俵とし、慣行肥料との比較も行います。

課題設定②

「桃新品种『白皇』の栽培技術の確立と品質保持に向けた実証試験」

取組内容

白皇[®]の裂皮軽減および品質向上

取組具体策

白皇[®]は新品种のため生産農

と土壌改良剤の導入、IC

Tを活用した営農指導を行なっていく予定です。

備南営農センター

課題設定①

「担い手、生産者を育て、農地の有効活用を図り、農家所得の向上を目指す」

取組内容

露地キャベツの生産拡大

取組具体策

生産者の高齢化にともない耕作放棄地の増加とともに管内農作物の生産面積が減少しています。

露地キャベツの作付拡大と多収

にむけた追肥試験を行うほか、乾田化促進のために、もみ殻暗きよを推進します。また、生産部会を設立し、担い手農家の確保・育成に取り組みます。

課題設定②

「タマネギの10^アあたり5トンの収



量確保による農家所得の向上」

取組内容

水田作タマネギの反収向上

取組具体策

タマネギの栽培面積は拡大しているが、10^アあたりの収量は1・8トと面積に見合った収量が確保できていません。そのため、除草体系の見直しによる確実な栽培管理を行います。栽培講習会、ほ場巡回を徹底し、収量性の向上を図ります。



培管理と病害虫防除の徹底を行います。また、育苗施設を利用し、播種同時苗箱処理剤の導入を検討していきます。

担い手農家の経営内容が多様

化している中、農家所得の増大にむけて契約野菜等の有望品目の導入を行います。またイベントむけの観賞用カボチャについても需要があることから品目の選定と生産拡大を目指します。

また繁忙期の人手不足を解消

するためには作業支援を検討するほか、加茂川地区で軽量野菜として有望な「おもちゃかぼちゃ」の新規栽培者を募集します。

建部営農センター

課題設定①

「建部地区水稲生産者を対象とした『きぬむすめ』の生産量の増加」

取組内容

「きぬむすめ」の生産拡大

取組具体策

「ヒノヒカリ」、「こまる」に替わる品種の選定として食味ランキング特Aを取得している「きぬむすめ」の生産拡大に努めます。

講習会等を通じて栽培啓発を行うとともに、天候に左右されず安定した収量を図るため、栽

予告

各営農センターの取り組み結果については、2月号より随時ご報告させていただきます。

楽しい家庭園芸

2019.12
お問い合わせ先
営農部指導課
Tel.086(225)3224

野菜



営農部指導課
中江 智子

農薬散布の時に作物名は表示を確認する習慣にしましょう

農薬散布の際に作物名について悩むことはありませんか？収穫時の大きさや形状、録上では別の作物として扱われる場合があります。今月号では、農薬散布時に注意すべき作物についてお伝えします。

大きさが異なる

●トマトとミニトマト

トマトとミニトマトは直径で分類されており、直径3センチより大きい品種は「トマト」、直径3

センチ以下の品種は「ミニトマト」に分類されます。中玉トマトは直径によってどちらの登録を使用するか選択してください。

形が異なる

●レタスとリーフレタス

玉レタスのように結球するものは「レタス」葉レタスのように結球しないものは「リーフレタス」に分類されます。家庭菜園で人気のリーフレタスですが、農薬散布の際には注意が必要です。

収穫時期が異なる

●トウモロコシ

スイートコーンのように茹でたり焼いたりして食べるものは「未成熟トウモロコシ」に分類され、ポップコーンなどに用いる完全に成熟したものは「トウモロコシ(子実)」に分類されます。農薬のラベルに一方だけ記載されている場合はもう一方には使用できませんが、「トウモロコシ」と記載

されている場合は両方に使用可能です(資料1)。

また中華料理などに使用するヤングコーン(ベビーコーン)は、スイートコーンのわき芽を間引いたもので、「ヤングコーン」として上記2つとは異なる作物に分類されます。

●ダイズとエダマメ

成熟してから収穫したものが「ダイズ」で、未成熟なうちに収穫したものが「エダマメ」です。どの段階で収穫するのか、栽培目的に応じて農薬を選択する必要があります。同

じように「インゲンマメ」と「サヤインゲン」、「エンドウマメ」と「サヤエンドウ」は異なる作物に分類されます。

この他にもまぎらわしい作物がありますので、不安なときは表示を確認する習慣にしましょう。また、両方の作物に使える農薬もあります。

資料1 まぎらわしい作物

トマト	ミニトマト
	
直径3センチより大きい	直径3センチ以下

レタス	リーフレタス
	
結球する	結球しない

トウモロコシ		ヤングコーン
トウモロコシ(子実)	未成熟トウモロコシ	
		
成熟	未成熟	わき芽

ダイズ	エダマメ
	
エンドウマメ インゲンマメ	サヤエンドウ サヤインゲン
成熟	未成熟

花き

寒さが苦手な
花の屋内への
取り込みなどの
お知らせです



営農部指導課
中川 雄一

冬になりました。畑や庭の防寒対策、寒さが苦手な花の屋内への取り込みをされていることと思います。寒い時期によくある、花についての質問についてお知らせします。

●大株のクンシランなのに花が咲かない

置いた場所にもよりますが、3〜4月ごろが開花期です。その時期になっても開花しないのには理由があります。

寒さにあまり強くないので冬は屋内に入れておくといいですが、5〜10℃の低温に40〜50日遭わせないと、花茎が伸長せず株元で咲いたりします(資料2)。暖かすぎる屋内で保護するのは開花によくありません。

また、冬の間も直射光で葉焼けしない程度で日照のよい場所に置かないと開花しないことがあります。灌水は、冬でも土が乾いたら、午前中に充分行います。

この他の原因としては、肥料不足で充分葉が育たなかった場合や、根腐れを起こしている場合、よく乾く夏の水不足などが考えられます。施肥は新葉が動き始めるころ(2月ごろ)から6月、夏は避けて9月ごろ、油粕と骨粉を混ぜた固形肥料などを置き肥します。根腐れは用土の排水不良やかん水過多などが原因になります。

●シャコバサボテンのつぼみが咲かずに落ちた

色づき始める前の小さいつぼみの時期は環境の変化に敏感で、移動したことでつぼみが落ちてしまうことがあります。

置き場所を変えるには、着色し始めている、3センチ以上になっているなどを目安に、タイムリングを考えましょう。冬はあまり暖かすぎるより10〜

15℃(一番寒い時で5℃)くらいの温度のところに置くのが花保ちもよくなります。日中は明るい環境がよく、花が咲いている間は鉢土の表面が白く乾いたら午前中にたっぷり灌水し、生長を休止する花後は水も少なめにしていきます。

●シャコバサボテンの花が咲かない

日長が12時間以下になったら花芽分化を始める短日植物です。(日長12時間以下は秋のお彼岸以降になります。日の出前と日没後も明るいので、実際には10月上旬以降)自然日長ならその後花芽が発達して開花することになりますが、夜も明るい室内に置いていたり、街灯が明るいなどの場合は、12時間以上暗い時間が続く場所に移動する必要があります。その際温度は上記のように低い方が花芽分化しやすいとされます。

果樹

せん定の前に
花芽が前年枝の
どの位置にある
か確認しよう



営農部指導課
小野 智寛

これから寒さがより一層厳しい時期に入りますが、2020年もおいしい果実が家庭で作れるように樹の手入れを行います。

●整枝・せん定をする理由

整枝・せん定の目的は果実をたくさん実らせるために行う作業だと考える方も多いと思いますが、実際には実らせる量を制限することが大きな目的となります。もう一つの目的は樹勢を維持し作業しやすい樹形にすることです。皆さんの園地の樹はいかがでしょうか。上にばかり樹が伸び、収穫作業や管理が大変だったりしませんか?(資料3)

●果樹のせん定期

せん定の時期は果樹の品目によって多少異なります。一般的

に梅、桃、カリン、キウイなど発芽の早い品目は年内から1月中に行います。ブドウやナシは1〜2月、発芽の遅い品目(イチジク)は寒さが緩和された3月に入って行います。

●果樹の整枝・せん定

整枝・せん定をしないですと、枝が伸びて樹冠が大きくなるにつれて樹のふところ部分が日陰となり枝が枯れて、年々結実する位置が高くなってきます。こうなると収穫作業が困難になるなど樹の維持管理が難しくなるので、そうなる前に整枝・せん定を行い、樹幹内部まで日が入るようにして、果実のなる着果部位を下げましょう。ただし、落葉果樹は葉っぱが落ちて樹が休眠に入ってからせん定を行うようにしましょう。

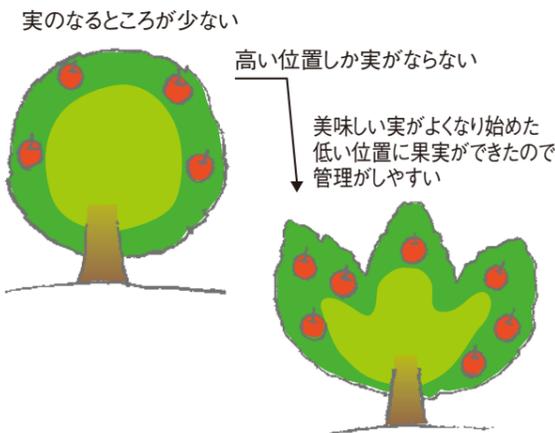
●枝の切り返しせん定

樹種により花芽のつく位置が異なります。花芽を確認せず、むやみに枝を切り返すと結実が安定しません。花芽が前年枝のどの位置にあるかを確認してから切り返しせん定を行きましょう。

●結果習性

核果類(桃・スモモ・梅等)は前年枝に花芽と葉芽が分かれて着き、花芽の位置が容易に確認できます。しかし、柿・梨・ブドウ・キウイなどは混合芽なので、前年枝に花芽と葉芽が1芽の中に混在し、枝が伸長した当年枝にならないと花芽が確認できません。また、混合芽は果樹の種類によって前年枝に着く花芽の位置が異なるので、花芽が前年枝のどの位置にあるのかを把握し、せん定の前に必ず花芽の確認をしましょう(資料4)。

資料3 樹表面の凹凸で日当りをよく



資料2 茎が伸びずに開花した株



資料4 品目別の花芽と葉芽の付き方

品目	芽の形態	花芽の着生部位	果実の着生枝	よく結実する枝(果枝)	陰芽の発生	樹姿	
桃	花芽、葉芽が分かれる	前年枝の頂芽と腋芽	前年枝	中、短	少	開直	
梅				短	多		
スモモ				短、花束状短果枝	中少		
黄桃							
日本梨	花芽と葉芽が1芽に混在	頂芽と腋芽	当年枝	長、中、短	中、多	直	
西洋梨		頂芽		中、短	中		
リンゴ		頂芽		—	少		蔓直
ブドウ		腋芽		中、長	多		
柿		頂芽と頂芽に続く2〜3の腋芽		長	中	蔓	
キウイ		基部3〜8節の腋芽		長	中	蔓	
栗		カキと同じ		中、長	中、多	開	
イチジク		頂芽、腋芽		1.5m程度	—	開	

注:短は10cm以下、中は10〜30cm、長は30〜50cm